



上伊那

令和2年6月1日

「かみとくれんの樹（き）」

～つながりにくい時代に、つながるためのよりどころ～

上伊那圏域特別支援教育連携協議会会長 齋藤 良直

ソーシャルディスタンスと言われるように、人と人が離れることを基本とする時代になりました。しかし、ご存じのように、私たち「かみとくれん」の役割は、そんな時代においても、つながっていくことにあります。

一見、相反するように見えることの両立は、そう簡単ではありません。例えば、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休校中の対応について、学校としてよかれと考えて行うことも、ある方々にとっては、苦しいことになってしまっている……。お互いの立場をイメージする難しさを改めて感じています。

このような経験から、「かみとくれん」のように、医療・保健・福祉・労働・教育等、様々な方々が様々な立場でつながる組織に、お互いの立場をイメージするためのよりどころがあるといいなあと考えました。今回は、自立をテーマに樹木に見立ててイメージしてみます。題して「かみとくれんの樹（き）」。

<イメージ化のステップ1>

～ 自立を樹木に見立てる ～

・その子の自立に向けた育ちを樹木の成長に見立てます。支えとなる根、軸となる幹、広がる枝葉、そして、花開き、実るイメージ。例えば、実りは社会参加の段階とイメージします。



<イメージ化のステップ2>

～ 役割を光・水・肥料に見立てる ～

・自立に向けた育ちを支える「かみとくれん」のそれぞれの役割を、樹木の成長を促す、光・水・肥料に見立てます。それぞれに施す、質や量、タイミングまでもイメージします。

<イメージ化のステップ3>

～ 相手と自分の役割を見立てる ～

・相手は根の育ちを支える水で、自分は幹の育ちを支える肥料かもしれません。あるいは、相手も自分も根の育ちを支えるけれど、相手は水で自分は肥料かもしれません。

以上、「かみとくれん」それぞれの役割において、必要なことやできること、どんなふうにつながるとうまくいきそうか……。がイメージしやすくなるようにと、一例を考えてみました。つながりにくい時代に、つながるためのよりどころの一助となればいいなあと思います。